

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	国際関係学部日本語教員養成課程における日本語教育実習について				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	水野 かほる
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	水野 かほる

講演題目	2021年度 日本語教育実習
------	----------------

研究の目的、成果及び今後の展望

1. 研究の目的

日本語教師に求められる資質・能力のうち、日本語教師に必要な技能・態度に含まれる実践力を身につけるため教育実習の履修が必要要件になっている。そのため、国際関係学部の「日本語教員養成課程」においては、2020年度から学外の日本語教育機関を受け入れ先とする日本語教育実習を実施している。

2. 成果

日本語教育実習を実施する科目「日本語教授法Ⅲ」では、大学での講義と学外での実習の2本立てで日本語教育実習を実施した。2021年度の実習はCOVID-19感染拡大の影響を受け、予定していた8・9月の実習ができなくなり、実習生のワクチン接種や受け入れ校の状況との調整などを行った上で10～12月に実習を実施した。結果として実習校及び実習生の参加数が当初の予定よりも減ってしまった。主な実施内容と実習の概要は以下の通りである。

- ・主な指導項目：オリエンテーション、授業見学、授業準備、教材分析、模擬授業、教壇実習、教育実習全体の振り返り、等
- ・実習期間：2021年7月、10～12月の間の10日間
- ・実習生：「日本語教授法Ⅲ」の受講生のうち6名
- ・実習校：静岡県内の日本語学校3校、ブラジル人学校1校
- ・実習後、実習内容や実習生の感想等をまとめた日本語教育実習報告書を作成した。

3. 今後の展望

2020・2021年度ともに新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた実習になった。実習先の日本語教育機関は学習者数が激減し困難な状況の中で、本学の学生を受け入れ非常に熱心なご指導をしてくださったことに感謝したい。国際関係学部は、海外での日本語教育及び国内においても多様な現場や目的の学習者に対する日本語教育に関心を持つ学生が多く存在すると考えられ、今後、より充実した日本語教育実習の実施にむけて検討を重ねていきたいと考える。